

みんなで談話整備プロジェクト

—文化庁「各地方言収集緊急調査」資料の整備と活用—

井上文子

「各地方言収集緊急調査」

- ・1977(昭和52)年度から1985(昭和60)年度にかけて、文化庁によって実施された全国規模での方言談話の収録事業
- ・調査目的は、「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する。」「自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。」
- ・調査地点は、各都道府県について5地点程度
- ・各都道府県において、3年度計画で収録
- ・1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を収録、3時間程度を文字化・共通語訳付与
- ・収録内容は、自由会話（高年層男女、高年層男性、高年層女性、目上と目下など）、場面設定の会話、民話
- ・全国228地点の方言資料（223地点の音声資料）が残されている
- ・約7,500本のカセットテープと、その一部を文字起こした手書き原稿
- ・『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全20巻（国書刊行会）の原資料
- ・日本語諸方言コーパス（Corpus of Japanese Dialects : COJADS）の原資料

A-1. 原資料

- ①手書き原稿
方言文字起こし・共通語訳
- ②カセットテープ
方言音声

A-2. 原資料電子化データ

- ①-1 手書き原稿のPDF
- ①-2 手書き原稿を入力した
テキストファイル
- ② カセットテープ音源をその
まま電子化した音声ファイル

A-3. 原資料電子化加工 データ

- ①-1 手書き原稿のPDF
- ①-3 談話ごとに方言と共通語
訳を対照させたExcelファイル
- ②談話ごとに切り出した音声
ファイル

「みんなで談話整備プロジェクト」

- ・方言データを分担・協力して整備
- ・方言データの共有と公開
- ・方言データを言語資源として将来に継承
- ・プロジェクトの組織的・継続的な取り組み
- ・プロジェクト参加者のコミュニティづくり

【参加者】

- ・コーディネーター（「消滅危機言語の保存研究」電子化プロジェクト担当者・COJADS班）
- ・整備作業担当者（ネイティブチェック、アラインメントデータ作成）
- ・サポーター（研究費提供、作業担当者の監督、プロジェクトへのさまざまな支援・協力）

B. アラインメント・ネイティブ チェック済データ

- ①TextGridファイル
- ②時刻情報付きエクセルファイル

【共同体制】

- ・国立国語研究所共同研究プロジェクト「消滅危機言語の保存研究」
- ・科研費基盤研究(A)「日本語諸方言コーパスによる方言音調の比較類型論的研究」
- ・科研費基盤研究(A)「『全国方言文法辞典』データベースの拡充による日本語時空間変異対照研究の多角的展開」

『全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成』
全20巻 国書刊行会

国立国語研究所学術情報リポジトリ

<https://repository.ninjal.ac.jp/>

C. 個人情報処理済データ

登録データ doi付与
TextGrid Excel メタデータ

危機言語データベース

<https://kikigengo.ninjal.ac.jp/>

C. 個人情報処理済データ

公開データ
音声資料 カジュアル視聴

日本語諸方言コーパス

(Corpus of Japanese Dialects : COJADS)

<http://www2.ninjal.ac.jp/>

D. コーパスタグ付けデータ

COJADSデータ 無償版
COJADSデータ 有償版

「みんなで談話整備プロジェクト」ホームページ
<https://sites.google.com/view/danwaseibi/home>